

山頂(屋上)までの道中

《山へ、川へ。》 谷本研・中村裕太

撮影: 麥生田兵吾

Gallery PARCの入り口にころがる石(中村裕太)を背負い、人(谷本研)が山頂(屋上)へと願掛けに登る。山頂までの道中に展示された写真はその様子を追ったものである。麓の川で石を拾い、三合目の参詣曼荼羅で道程を伺い、五合目の重ね石を見やり、七合目で重ねる石を探し、急な山道を登りたどり着いた山頂に、願とともに石を積む。山頂に小さなホコラが今も残る京都府「由良ヶ岳」①と、愛知県「石上げ祭」②に着想を得た作品。

- ① 京都府宮津市と舞鶴市の狭間に位置する標高640mの山。丹後富士、宮津富士とも呼ばれている。虚空蔵ヶ岳とも呼ばれた修験道の聖山であり、十三参りとして、山頂に石を上げる風習があった。山頂の小さな祠はその名残。九合目に見える写真はその山頂からの眺望。
- ② 愛知県犬山市に位置する山・尾張富士で毎年8月の第1日曜に行われる祭。隣の本宮山との「背くらべ」に負けた尾張富士のご祭神が、村人に石を山頂に担ぎ上げ、山を高くすることを命じ、石を積み上げた末に人々の願いを叶えたことを由来とする。願を書いた石を山頂に奉じる願掛け。
- 三合目の売店で販売している石(300円)に、皆様の願を書き、山頂の石積みに奉じていただけます。本展会期中に積まれた願掛け石は、谷本・中村が皆様の名代として、会期終了後に由良ヶ岳へと奉じ、絵葉書によってご報告いたします。

七合目(4階)

《日本ラインの石》 中村裕太

中部地方を流れる木曾川は、美濃加茂市と可児市の境界付近の飛騨川との合流地点から、愛知県犬山市の犬山城付近までを総称して「日本ライン」と呼ばれ、今日まで川下りにまつわる観光産業が発展していた。縁あってこの地をリサーチした中村裕太は、飛騨川との合流点付近の牧野小山遺跡より石鍾(せきすい)①が発掘されたことを手がかりに、この凹部を擦り切るに下呂石(げろいし)②を使用したのではないかと推察。実際に河原で比較的やわらかな砂岩を採集し、叩き割った下呂石の破片で石を擦り切り、12個の石鍾を得た。展示は実際に下呂石を割る際に用いた叩き石の張り子と、擦りに使用した下呂石、石鍾を麻紐で結わえたもの。

- ① 手ごろな石に凹部を与え、糸や紐をかけ結ぶことで、おもに漁の投網の鍾(おもり)として用いられた石器の一種であり、凹部を擦り切ったものは切目石鍾と称される。
- ② 飛騨南部の湯ヶ峰で産出されるガラス質を含んだ黒褐色の石で、破片が鋭利な板状になる。

五合目(3階)

《重ね石 拓本》 谷本研

ポニーとともに白川街道を京都から大津へ向けて歩き、道中に出会う石仏に花を手向けたキャラヴァンの記録映像を、《栗毛絵》とともに展示した2016年の「season3 白川道中膝栗毛」。その道中にある、県境の印として大きな岩に磨崖仏が彫られた「重ね石」に、2018年にあらためて訪れ、制作した拓本①。本展会期中には、願掛けとしてこの「重ね石」を再び訪ねるイベント「路線バスツアー 川から山へ | 山中町・重ね石再訪」を開催します。

- ① 制作協力: 津村吉乃、村田のぞみ、フィオリン・ラセリア、リュウ・シンホウ
- ポニー(赤兎)の毛を用いて中村が制作した筆により、谷本が大津絵を模して描いたこの《栗毛絵》は、三合目の売店にて販売しております。

三合目(2階)

《タイルとホコラ参詣曼荼羅》 谷本研

2014年よりはじまった「タイルとホコラとツーリズム」を題材にした、谷本筆による参詣曼荼羅(さんけいまんだら)。元来の参詣曼荼羅の様式①に倣ったこの作品には、5年に及ぶこれまでのエピソードが描き込まれている。画面に山と川、中央には2014年の「ホコラ三十三所巡礼ツアー」②で巡った京都市内のホコラが描かれ、周囲には白川街道や沖縄や台湾など、これまでの旅の様子が描かれている。本展会期中に開催されるイベント「サンセットBBQ 屋上ホコラ盆」では、谷本による絵解きが行なわれる。壁面には谷本画による広報用まんがの原画のほか、5年間のフィールドワークで出会った各地の石や、「石上げ祭」の様子が伺いしれる写真が散りばめられている。

- ① おもに参詣の場の俯瞰地図であるとともに、大きな画面の上部に山、下部に海が記され、往きかう人々の姿や、場にまつわる物語(縁起・譚)が描き込まれることが多い。別資料に詳しい。
- ② 2014年の「ホコラ三十三所巡礼ツアー」にて用いられた、谷本の詠んだご詠歌とホコラマップをまとめた『ホコラ三十三所御詠歌(平成三十年度改訂版)』は三合目の売店で販売しております。
- お家にも飾れるサイズのプリント版《タイルとホコラ参詣曼荼羅》は三合目の売店で絶賛販売中です。

作品 works

1F~RF

谷本研・中村裕太

《山へ、川へ。》

2018 ミクストメディア サイズ可変 撮影: 麥生田兵吾

4F

中村裕太

《日本ラインの石》

2018 石、紙、麻紐、映像(56秒) サイズ可変

3F

谷本研

《重ね石 拓本》

2018 綿布に拓本墨 約h1000×w2800mm

制作協力: 津村吉乃、村田のぞみ、フィオリン・ラセリア、リュウ・シンホウ

2F

谷本研

《タイルとホコラ参詣曼荼羅》

2018 阿波紙に着色 約h1500×w1500mm

谷本研

タイルとホコラ参詣曼荼羅 絵解き

8月19日に録音 27分30秒 制作協力: 小西七重

谷本研

《タイルとホコラとツーリズム 広報用まんが 原画》

2014~18 漫画用原稿用紙にインク 約h1500×w1500mm

谷本研・中村裕太

フィールドワーク記録写真(THT5年間の活動記録より「石」にまつわるカットを抜粋)

2014~18 インクジェットプリント

関連イベント event (いずれも終了しました)

路線バスツアー 「川から山へ | 山中町・重ね石再訪」

京都と滋賀を結ぶ白川街道(志賀越道、山中越とも)の県境には、大きな岩に磨崖仏が彫られた「重ね石」があります。かつては地元の方が地藏盆もおこなっていたそうですが、今では人知れず旧道にひっそりとたたずんでいます。そんな重ね石に、河原で拾った石を運んで願掛けをします。

【日時】 8月25日(土) 13:00~17:00 *小雨決行・荒天中止

【参加】 予約不要・参加無料 *但し路線バス代として往復700円程度必要

サンセットBBQ 「屋上ホコラ盆」

京都市内の屋上ビアガーデンにて足洗い(打ち上げ)。「タイルとホコラとツーリズム」5年間の活動をコスモロジーとしてまとめた谷本筆による《タイルとホコラ参詣曼荼羅》のお土産と、谷本による絵解きライブ付き。

【日時】 8月25日(土) 17:00~ *ギャラリー・パルク集合

【定員】 20名(事前申込制/先着順)

【料金】 4,300円(大丸KYOTOビアガーデンでの飲食代) *プリント版《タイルとホコラ参詣曼荼羅》がついてくる!

【申込】 【氏名/住所/電話番号】を明記の上、【info@galleryparc.com】までメールにてお申し込みください。

関連グッズ novelty goods

3合目(2階)にある売店では、これまでの「タイルとホコラとツーリズム」関連グッズを期間限定で絶賛販売中です。旅のお土産選びにぜひお立ち寄りください! 商品のお求め・詳細はスタッフにお声がけください。

品揃え

- 商品1 願掛け石(絵葉書つき!) 1個 300円(税込)
お気に入りの石に願を記して、山頂の石積みに「石上げ」しませんか? 本展会期中に積まれた願掛け石は、谷本・中村が皆様の名代として、会期終了後に由良ヶ岳へと奉じて参ります。石上げ後、絵葉書によって皆様にご報告いたします。
- 商品2 プリント版 タイルとホコラ参詣曼荼羅(THT5-01) 1枚 3300円(税込)
2合目にある谷本筆《タイルとホコラ参詣曼荼羅》を、持ち運びに便利なサイズにプリント。
*サンセットBBQ(終了しました)参加者にはもれなくプレゼントいたします。
- 商品3 ホコラ三十三所御詠歌2018年版(THT1-01') 1部 300円(税込)
2014年の最初の「タイルとホコラとツーリズム」にて配布された、谷本が御詠歌を詠んだ市内のホコラ33箇所を収めたマップの2018年最新版!
- 商品4 ホコラ缶バッチ(THT1-02) 1個 100円(税込)
京都市内のホコラを缶バッチに! お気に入りのホコラを探してみては?
- 商品5 ホコラ三十三所ペナント(THT1-03) 1枚 750円(税込)
- 商品6 栗毛絵(THT3-01) 1枚 1500円(税込)
2016年の「season3 白川道中膝栗毛」において、旅のお供のポニーの毛で中村が仕立てた筆を用い、谷本が大津絵を模して描いた「栗毛絵」を期間限定で販売!
- 商品7 対馬・沖縄・台湾・濟州島の祠ガイドブック(THT4-01) 各50円/セット150円(税込)

タイルとホコラとツーリズム season5 《山へ、川へ。》

2018年8月17日(金) - 9月2日(日) 11:00~19:00

*月曜日はお休み / 金曜日は20:00まで

出品作家 | 谷本 研(たにもと・けん) / 中村 裕太(なかむら・ゆうた)

会場 | Gallery PARC (ギャラリー・パルク)

主催 | 「タイルとホコラとツーリズム」実行委員会 制作協力 | 麥生田兵吾(写真撮影)

協力 | Gallery PARC / H A P S 東山アーティスト・プレジデント・サービス

